

特集

先輩たちの仕事

—活躍する中大出身者とその作品—



CONTENTS

- 図書館長再任にあたって／関野館長のオススメ 図書館長 関野満夫
- 新学部〈国際経営学部・国際情報学部〉教員、オススメの一冊
- 特集 先輩たちの仕事—活躍する中大出身者とその作品—
- 図書館所蔵 西行関連資料が和歌山県立博物館企画展に
- インターナショナル・ウィーク第10回「SDGs学生フォトコンテスト作品展」を開催
- 新収資料紹介 中央大学教職員著作目録・資料目録(2018.1～2018.6収集分)

# 図書館長再任にあたって

図書館長 関野 満夫（経済学部教授）

私は2017～2018年度の2年間、中央大学図書館長を務めました。この度さらに2年間（2019～2020年度）図書館長の職務を拝命することになりました。今後とも学生、院生、教職員の方々の意見を聞きながら中央大学図書館に課された役割や直面する課題に対処していきたいと思っております。とくに、①情報化・IT社会化が進む中で、学生が利用しやすい図書館施設と図書館サービスの充実を図ること、②学内研究者のニーズに応えられるよう図書・資料・電子資料の充実、最新化、効率化に努めること、③中央大学の新たな展開（2019年度新学部の開設、都心の新キャンパス構想、多摩キャンパスの再編充実、等）の中での図書館の役割を積極的に検討することを進めていきたいと考えています。皆様のご支援、ご協力をよろしくお願い申し上げます。



## 関野館長のオススメ

中央大学に学び・働く皆さんにはご承知のとおり、中央大学は1885（明治18）年に英吉利法律学校として設立され、その後、東京法学院（1889年）、東京法学院大学（1903年）を経て1905（明治38）年に中央大学と改称しました。ところが当時の本学は「大学」の名称は名乗っても、法律上は専門学校令に準拠する学校という位置づけでした。これは、早稲田、慶応義塾、明治など他の私学も同様です。というのは、1918（大正7）年の大学令が公布されるまでは、日本での大学としての存在は、制度上は帝国大学のみに認められていたからです。そして、わが中央大学は1920（大正9）年4月によりやく大学令に基づく大学（法学部、経済学部、商学部、大学院、大学予科）として認可されることとなります。明治・大正期での創立期から大学認可までの経緯や先人のご苦労については、本学の正史たる『中央大学百年史 通史編（上・下）』（中央大学 2001, 2003）や、エピソード集たる『タイムトラベル中大125 1885→2010』第2版（中央大学 2011）に詳しく、かつ興味深く書かれておりますので是非ご一読していただければと思います。

さて、この場を借りてお薦めしたいのは、天野郁夫著『大学の誕生（上・下）』という本です。本書では明治期以降の近代国家形成をめざすわが国において、大学教育や大学制度というもののがどのように形成・発展してきたのかを、帝国大学、官立専門学校、私立学校等について、「人と組織が織りなす、手に汗握るドラマ」として大変おもしろく描かれています。中央大学も当然、登場してきます。上下合わせて800ページ余りありますが、学生も含めて大学関係者ならば、いろいろな発見もあって興味深く読める内容です。是非、ご一読ください。



### 大学の誕生（上） 帝国大学の時代

天野郁夫著  
中央公論新社 2009（中公新書）  
【所蔵】開架新書 中公新書/2004  
理開小型 377.21/A43  
市ヶ谷法務 377.21/A43



### 大学の誕生（下） 大学への挑戦

天野郁夫著  
中央公論新社 2009（中公新書）  
【所蔵】開架新書 中公新書/2005  
理開小型 377.21/A43  
市ヶ谷法務 377.21/A43

\*上記のオススメ図書は中央図書館2階で展示します。理工学部分館では5月以降展示予定です。

# 新学部教員、オススの一冊



2019年4月に誕生した国際経営学部、国際情報学部の先生から  
「この一冊」を選んでいただきました。  
中央図書館2階で展示します。

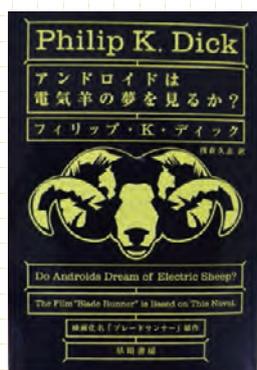


## 社会システム論—社会科学総合化の試み—

公文俊平著 日本経済新聞社 1978年  
【所蔵】中央書庫 301/Ku39

「システム」という言葉は今では当たり前のように使われているが、1960年代から70年代にさまざまな分野の研究者がその概念に関する議論を盛んに展開した。一般論からすれば、システムは相互に関係し合う複数の構成要素の集合体と理解できる。この概念は機械、企業経営、IT、生命体、太陽系などの多様な実体や挙動の「仕組み」を説明するのに役立つ。さらに、自然現象や社会現象を「分化と総合の視点」から認識する際の「論理」や「表現（記号関係）」にもあてはまる。中でも、私が学生時代に、自分を社会の構成要素であると自覚し、他人や組織との関係において自らの立ち位置を客観的に観察することの大切さを感じてきたのは、本書に拠るところが大きい。著者は「自分自身および自分を取り巻く外部世界についての自覚と、自覚を基礎とする認識イメージを有する存在」としての「主体」の集合体を「社会システム」と規定している。主体の構成と関係が変われば社会システムは変化するのだから厄介である。社会が悪いとか社会に流されるとかは、容易に言えそうもない。発刊当時の社会問題に関する評価やイデオロギーとは関係なく、本書の「主体」論は熟考に値する。

国際経営学部開設準備室長  
河合 久



## アンドロイドは電気羊の夢を見るか？

フィリップ・K・ディック著 浅倉久志訳 早川書房 2011年 (ハヤカワ文庫)  
【所蔵】開架 933/D72

本書は、映画「ブレードランナー」(1982年 Warner Bros.)の原作。遺伝子工学を使って超人的人造物「レプリカント」が造られ、いわゆる3K(キつい、キたない、キ険)職場の労働力として奴隷のように酷使される未来。感情を持たないように造られたはずなのに、月日と共に感情を育んでしまうレプリカントが、ヒトに反抗する危険性を危惧して、寿命は僅か4年で尽きるように設計されていた。ところが寿命の延長を望むレプリカントがヒトを殺し始める…。これが映画のプロット。原作は少し異なり、特に社会背景の映像表現は、続編映画「ブレードランナー 2049」(2017年 Sony Pictures)の方が原作に似ている。

ところで今、現実社会では、AIのようなヒトを超える人造物の開発にしのぎが削られ、ヒトから職が奪われる等の不安も広がっている。〈ロボット工学三原則〉の考案者アイザック・アシモフは嘗て、「社会が知恵(wisdom)を獲得するよりも速く工学技術が知識(knowledge)を獲得する」状態を憂っていた。今、AIに負けない〈知恵〉を得るためにも本書を読んで、ヒトがヒトたり得ることとは何かを考えて欲しい。

国際情報学部開設準備室長  
平野 晋



※教員の所属と身分は2019年3月時点のものです。

# 先輩たちの仕事 —活躍する中大出身者とその作品—

## ナオト・インティライミ Naoto Inti Raymi

1979年、三重県生まれ。本名、中村 直人（なかむら なおと）。シンガーソングライター。「インティ ライミ」は南米インカの言葉で「太陽の祭り」を意味する。中央大学附属高等学校・中央大学文学部社会学科卒業。

音楽を始めたのは中学2年生の時。中学時代はプロスポーツクラブ日立柏レイソルのジュニアユースに所属していたほどのサッカーの腕前を持っているが、チームメイトが弾くギターを聴き、「かっこいい」「俺にもできんじゃねえか」と思い練習したのがきっかけで、1ヶ月後にはオリジナル曲を作曲してしまうくらい音楽にのめり込んでいった。高校1年生の頃、サッカー選手と歌手との両方の夢で迷っていたが、当時の担任に背中を押され、歌手を志す決意を固める。大学では授業の合間を縫ってデモテープを売ったり、ライブ勧誘をしたりするなど、精力的に活動していた。軽音楽とサッカーの同好会と複数の部会活動を行っていたこともあり、友人が多く、「中央大学受験生ナビ Connect web」でのインタビューでは当時の様子を「中央大学は人間関係を育んだ場所」と語っている。また「情報の宝庫と言える中央図書館ではいつも落ち着いて勉強することができました」とも話しており、当図書館をよく利用していたことが窺える。

ストリートライブやライブハウスでのライブを積み重ね、大学4年生の時に「なおと」の名でソニーレコードからメジャーデビュー。しかし、初のアルバムは思うようには売れず、挫折。8ヶ月に及ぶ引きこもり生活を送る。「いつかワールドツアーをする、その時に笑ってたらいいんだ」という思いを原動力に、ワールドツアーの下見という名目で2003年8月～2004年12月まで515日をかけて世界28ヶ国の一人旅に出る。その時の体験記が『世界よ踊れ～歌って蹴って！28ヶ国珍遊日記～』（アジア・中東・欧州・南米編/南米・ジパング・北米編 幻冬舎文庫 2010, 2011）である。本書では、言葉や人種は違えど、音楽とサッカーと行動力で世界の人々と心を通わせていく様子が描かれており、彼の人物や音楽に対する情熱を感じることができる。帰国後、2度目のデビューをするが、今度は所属事務所が倒産してしまう。それでも地道にライブ活動を続け、Mr.Childrenのサポートコーラスとアコースティックギターに抜擢。それをきっかけに2010年、3度目のメジャーデビューを果たす。その後、デビューからわずか8ヶ月という速さで日本武道館公演を実現させ、2012年にNHK紅白歌合戦初出場。映画「神様はバリにいる」（2015公開）、TBSドラマ「コウノドリ」（2017放映）にも出演し、俳優業にも挑戦している。

この間、2012年にエチオピア・コロンビア・カリブ海、2017年に世界19ヶ国を訪ねており、この旅に密着した映像がドキュメンタリー映画として公開された。また映画に先行して旅フォト日記『旅歌ダイアリー』『旅歌ダイアリー2』（幻冬舎 2013, 2017）が刊行されている。

2018年には自身初となる全国47都道府県ツアーにて満員御礼の9万人を動員。また、12月末にはナゴヤドーム公演を大成功のうちに収めた。



株式会社エンジン提供



大学時代についての  
インタビュー記事はこちら  
「中央大学受験生ナビ  
Connect web」

## 瀬谷 ルミ子 Rumiko Seya

1977年、群馬県桐生市生まれ。高校3年生の時に新聞で見た、ルワンダで発生した大虐殺の難民キャンプでの亡くなりかけた母親のそばで泣く子どもの写真に衝撃を受けたことをきっかけに、紛争解決の道を志す。1999年、中央大学総合政策学部卒業。2001年、イギリスのブラッドフォード大学大学院で紛争解決修士号取得。在学中の2000年にルワンダの現地事務所にてNGO職員として着任し、専門家としてのキャリアをスタートさせた。続けて2002年に国連ボランティアのDDR（兵士の武装解除、動員解除、社会復帰）担当官としてシエラレオネで勤務。その後も2003年から日本大使館員としてアフガニスタンで軍閥の解体にあたり、2006年からは国連のDDR担当官として勤務する。DDR及び紛争後の復興、平和構築、治安改善（SSR）の専門家。

2007年から認定NPO法人「日本紛争予防センター（JCCP）」事務局長に就任し、ソマリア、南スーダン、ケニア、アジア地域などの事業を統括。2013年から同理事長。継続してアフリカ・中東の紛争予防と平和構築を支援する事業に取り組んでいる。

『Newsweek』日本版「世界が尊敬する日本人25人」（2011年）、日経ウーマン・オブ・ザ・イヤー2012準大賞、イギリス政府による「International Leaders Programme」（2015年）などに選出。NHK「プロフェッショナル 仕事の流儀」等のメディアで紹介されているほか、その経歴は『CROWN』（三省堂）など複数の高校英語教科書に教材として取り上げられている。

著書『職業は武装解除』（朝日新聞出版 2011/朝日文庫 2015）では、幼少時にはおおよそ外国に縁がなかった筆者がどのようなきっかけから紛争解決の専門家を志し、自分の専門分野を確立していったのか、海外を舞台に活躍できる仕事にも様々な立場から関わることができること、欧米とは異なった日本ならではの中立的な立場からの支援・貢献が有り得ること等が述べられている。将来、DDR、平和構築等の分野で働きたいと考える学生はもちろん、広く国際協力に興味がある学生にぜひ読んでもらいたい一冊である。





## 新海 誠 Makoto Shinkai

1973年、長野県生まれ。1996年、中央大学文学部卒業。

大学在学中からゲームメーカーでアルバイトを始め、卒業後正式に入社。パソコンゲームのパッケージやオープニングムービーの制作を手掛ける。在職中から自主制作アニメーションを制作しており、退職後、短編アニメーション作品『ほしのこえ』（2002）で商業デビュー。監督・脚本・演出・作画・美術・編集のほとんどを一人で手掛け話題となる。

初の長編アニメーション作品『雲のむこう、約束の場所』（2004）では、その年の名だたる大作をおさえ、第59回毎日映画コンクール「アニメーション映画賞」を受賞。その後、『秒速5センチメートル』（2007）、『星を追う子ども』（2011）、『言の葉の庭』（2013）を発表。また、大成建設やZ会「クロスロード」といったテレビCMも手掛けており、お茶の間で目にしたことがある学生も多いのではないだろうか。

2016年、長編アニメーション映画作品『君の名は。』を発表。それまでの作品以上にエンターテインメント性を発揮した本作は社会現象となり、最終興行収入250億円超という大ヒット作となった。同年10月に開催した「第25回中央大学ホームカミングデー」では、『言の葉の庭』上映会と本人登壇のトークショーを実施。在学中のエピソードやアニメーション制作に対する思い、映画産業に対する考え方を語り、会場を沸かせた。また、映画公開に先駆けた本人執筆の『小説 君の名は。』（角川文庫 2016）のサイン本は中央図書館に所蔵されている。

緻密な風景描写の美しさと光の使い方は「新海ワールド」と呼ばれる。また、美しく壮大な世界で出会う少年と少女、主人公の2人の心の距離という普遍的なテーマは、アニメーションファンのみならず多くの人々

を魅了してやまない。2019年には新作長編アニメーション作品『天気の子』の公開が予定されており、国内外で最も注目されるアニメーション監督の一人である。

第25回中央大学ホームカミングデーでの様子はこちら。  
「中央大学公式 YouTube Cニュース」

## 高田 郁 Kaoru Takada

兵庫県宝塚市生まれ。中央大学法学部法律学科卒業。小説家。

思春期にさしかかる頃に法曹界を志し、中央大学へ入学。司法試験への挑戦が始まる。エッセイ集『晴れときどき涙雨—高田郁のできるまで』（創美社 2012/ 幻冬舎文庫 2014）には、法学部時代の学食にまつわるエピソードや、司法試験に落ち茫然自失の日々を過ごしていた時、友人と思い立ち勉強中の図書館を出て、気になっていた名前のバス停「夕焼小焼」まで八王子駅から陣馬高原行きバスに揺られて行き、見事な夕映えを目にした日の心情が描かれている。法曹への夢を諦めきれず、卒業後も東京に残り受験を続けたが、父の病気をきっかけに郷里に戻り、働きながら司法試験に挑戦し続けた。

1993年、塾講師として働くかたわら、闘病中の父の言葉を何かの形に残しておきたいと、生まれて初めての短編小説を書き上げ、集英社女性漫画誌『YOU』の原作大賞に投稿したところ、特別賞を受賞、漫画原作者（ペンネーム 川富士 立夏）としてデビューした。自身も被災した阪神・淡路大震災における、地元消防署の救急隊員や大阪の報道関係者らの活動に取材した『Still Alive—まだ生きている』（集英社 YOU コミック 1998）、『メディア—1995年1月17日を私たちは忘れない』（同 1999）など、丹念な取材をもとに、骨太で社会的なテーマを持つ作品を送り出した。漫画原作者として着実に仕事を重ねてきたが、ある時「漫画家の絵を介するより、文章が直接読者に届く小説家のほうが向いているのでは」という友人の助言を受け、その頃再読した山本周五郎作品の世界への衝撃から、ここまでの表現ができる時代小説を書きたいとの思いを固くした。

2007年、『出世花』で第2回小説NON短編時代小説賞奨励賞を受賞。翌2008年、祥伝社より刊行され、時代小説作家への転身を遂げる。2009年、江戸時代を舞台に料理で腕の立つ天涯孤独な少女・湊（みお）が、大坂から江戸に出て、

周囲に支えられながら困難を乗り越え一流の料理人となっていく『みをつくし料理帖』第1巻『八朔の雪』（ハルキ文庫）を出版。大坂と江戸の食の好みや調理法の違いにもめげず、同業者との軋轢に遭うも持ち前の機転や創意工夫で乗り切っていく湊の物語は、累計380万部を超える人気シリーズとなった。北川景子主演（テレビ朝日 2012、2014）、黒木華主演（NHK 2017）でテレビドラマ化もされている。

2013年、2009年に幻冬舎から刊行され、2010年に文庫化された『銀二貫』が、「Osaka Book One Project」第1回受賞作となる。「大阪の本屋・問屋が、大阪ゆかりの既刊の文庫本を選び、ベストセラーへと育て上げ、収益の一部から社会福祉施設を通じて、必要とされる本を大阪の子どもたちに届ける」という賞の趣旨に感銘。地元で頑張る小さな書店のためにプロジェクトメンバーと共にサイン会に奔走し、多数の本の寄贈が実現した。同書は2014年、NHK大阪放送局でドラマ化され、林遣都が主演。その後、2015年に宝塚劇場、2017年に大阪松竹座で舞台化もされ、まさに大阪で愛される作品に成長した。

2019年2月には、『みをつくし料理帖』に続く人気時代小説シリーズ『あきない世傳 金と銀』（ハルキ文庫 2016-）の第6巻「本流篇」が発刊され、旺盛な執筆活動が続いている。



角川春樹事務所提供



自画像イラスト

## 秋元 康 Yasushi Akimoto

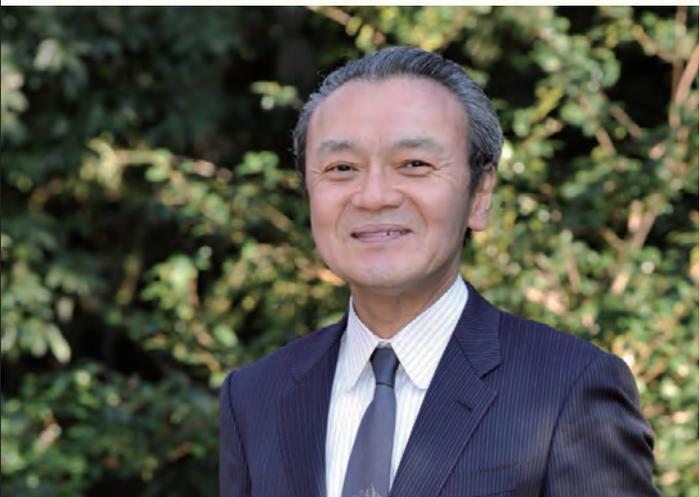
1958年、東京都生まれ。中央大学附属高等学校、中央大学文学部出身。作詞家。

高校2年の時から、放送作家として活躍。1983年以降、作詞家としての活動も始め、美空ひばり『川の流れのように』をはじめ、AKB48『恋するフォーチュンクッキー』や『365日の紙飛行機』、乃木坂46『シンクロシティ』など数多くのヒット曲を世へ送り出す。また、映画では『グッバイ・ママ』（監督・脚本 1991）、『マンハッタン・キス』（監督・脚本 1992）、企画・原作の映画に『着信アリ』シリーズ等を手掛けている。

2008年日本作詩大賞、2012年日本レコード大賞・作詞賞、2013年アニー賞長編アニメ部門音楽賞を受賞。AKB48、乃木坂46、欅坂46の総合プロデューサーを務めるなど、国内屈指のクリエイターである。

著書は『趣味力』（NHK出版 2003）、『着信アリ』シリーズ（角川ホラー文庫）、鈴木おさむとの共著『天職』（朝日新聞出版 2013）など。

初の長編小説であり、のちに映画化された『象の背中』（産経新聞出版 2006/扶桑社文庫 2007）は、余命半年を宣告された48歳のサラリーマンの主人公、幸弘が残された時間の中で、自身の人生に関わり影響を受けた人々に会いに行き、思い残したことを伝えながら、別れを告げていく物語。その中で、高校時代の友人、清との再会のシーンでは、母校の”C大の附属高校”を車で訪れ、JR中央線の武蔵小金井駅で車を降り、別れる場面が描かれている。また、巻末に、読書家でも知られた俳優、故児玉清氏との対談が掲載されており、ここでは両人の死生観を垣間見ることができる。私たち自身にもいずれ訪れる「死」に向けて、限られた「生」の時間をどう過ごしていくのか、すなわち「生の意味」というすべての者に与えられた命題についてあらためて考えさせられる作品である。



講談社提供

## 斉藤 洋 Hiroshi Saito

1952年、東京都江戸川区北小岩生まれ。1975年、中央大学法学部卒業、1984年中央大学大学院文学研究科独文学専攻博士後期課程単位取得満期退学。

大学の非常勤講師としてドイツ語を教えるかたわら執筆し、投稿した『ルドルフとイッパイアッテナ』で1986年第27回講談社児童文学新人賞を受賞し、児童文学作家デビュー。現在も大学教授として教鞭をとりながら、執筆活動を行っている。

『ルドルフとイッパイアッテナ』はひよんなことで岐阜から東京の江戸川に来てしまった猫のルドルフと、教養があり読み書きのできる猫イッパイアッテナの友情を描いた物語である。1991年にNHK教育テレビ『母と子のテレビ絵本』で毒蝮三太夫の語りで放映され、2016年には3DCGアニメーションとして俳優の井上真央、鈴木亮平の声で映画化されて、10代から40代の幅広い世代に愛される作品となった。

『ルドルフとイッパイアッテナ』の続編にあたる『ルドルフともだちとりだち』で1988年に野間児童文芸新人賞を受賞、1991年に『ルドルフ

とイッパイアッテナ』や『ペンギンハウスのメリークリスマス』など一連の作品で第13回路傍の石幼少年文学賞を受賞し、2013年には『ルドルフとスノーホワイト』で第51回野間児童文芸賞を受賞している。この他にも『おぼけずかん』シリーズなど数々の人気シリーズを生み出し、出版点数は300点を超える。『おぼけずかん』シリーズは図鑑という名前を持つ童話作品で、さまざまな場所にあらわれるおぼけたちを、ユーモラスな短いお話仕立てで紹介しており、シリーズ累計発行部数は40万部超と子どもたちに人気を博している。2018年11月には20冊目となる最新刊『オリンピックのおぼけずかん ビヨヨンぼう』が刊行された。

児童文学以外にも『童話作家になる方法』を執筆しており、その中では大学院時代に学んだドイツ文学が物語の骨子を作ることに役に立った経験や、当時の指導教授から「文学は娯楽であり、おもしろくなければならない」と繰り返し教を受けていたため「おもしろさ」とは何かを考えるようになり、生まれた作品が『ルドルフとイッパイアッテナ』であると語られている。

※紹介の作品は、いずれも講談社刊。



講談社提供

図書館では、この特集にあわせて

**第29回中央図書館企画展示：**

**先輩たちの仕事—活躍する中大出身者とその作品—**

を開催します。この機会にぜひご覧ください。

期間：2019年4月1日（月）～5月11日（土） 場所：中央図書館2階展示コーナー

## 図書館所蔵 西行関連資料が和歌山県立博物館企画展に

2018年10月13日から11月25日まで、和歌山県立博物館で開催された西行法師生誕900年記念特別展「西行—紀州に生まれ、紀州をめぐる—」に、図書館（文学部国文学研究室）で所蔵する西行の関連資料が展示されました。同記念特別展では、紀州が生んだ歌人西行の事績を振り返る機会として、西行像・和歌集・絵巻物など西行にまつわる様々な文化財が一堂に集められ、図書館からは、以下の2点3冊が貸出資料として展示されました。

●西行歌合（伝飛鳥井雅綱筆）2巻： [1] 御裳濯河（みもすそがわ）歌合 [2] 宮河歌合

※室町時代写本。冷泉家時雨亭文庫の資料が公開されるまでは、伝存中最も古い写本で、『新編国歌大観』（角川書店1983-1992）、『西行全歌集』（岩波文庫2013）に両歌合の底本として採用された。

●沙石集 無住著（10巻5冊の内、5冊目）

※室町時代写本。重要美術品。鎌倉時代に無住が著した仏教説話集。実話などに取材し、展示の巻には西行の逸話が綴られている。

残念ながら会期は既に終了しておりますが、企画展に際して刊行された図録を中央図書館及び文学部国文学国文学研究室に収蔵しておりますので、この機会にぜひご覧ください。【所蔵】中央書庫・国文 911.14/Sa18/W28

※特別展の詳細（展示資料一覧、図録の販売等）については、和歌山県立博物館のホームページをご参照ください。

<https://www.hakubutu.wakayama-c.ed.jp/saigyou/frameset.htm>



『沙石集』（本学所蔵）

## インターナショナル・ウィーク第10回 SDGs 学生フォトコンテスト作品展を開催

恒例の全学行事「インターナショナル・ウィーク」の開催に伴い、2018年12月5日（水）から10日間、中央図書館国際機関資料室では今年のテーマ「SDGs: 持続可能な開発目標」にあわせて特別展示「SDGs 学生フォトコンテスト作品展 2017&2018」を実施しました。SDGsとは、国連総会が採択した2030年までの行動計画で、貧困を根絶し、地球環境を安全にすることを目標にしています。国連広報センターと上智大学が主催するこのコンテストは、SDGsの17個あるゴールのうち1つ以上を表現した優れた作品を表彰します。本展では、林光洋経済学部教授より開催のご挨拶文をいただき、2017年と2018年の受賞作品全29点を展示しました。

2017年は、世界73カ国、1000点以上の応募作品から選ばれた全15点の受賞作品を展示しました。鋭いメッセージ性をもつ作品ばかりで、深刻で喫緊の課題がグローバルに進行している現実を観るものに訴えかけてきます。一方、2018年は、「日本で見つけたSDGs」をテーマにした全14点の受賞作品を展示しました。身近な題材を被写体にしつつ、それをSDGsのゴールとつなぎ合わせる若々しい感性が光っていました。

2017年と2018年の性格の異なる作品群を対比させることで、普段見えない世界の現実と身近な日本社会の課題が違うことを際立たせる展示となりました。受賞作品の隣には、色彩と内容豊かな「SDGsがなぜ大切な国連広報センター」を展示し、異なる場所に住み、違った問題を抱えてはいても、地球に住む市民はSDGsのゴールを共有していることがわかるような工夫をしました。

企画展示の準備作業中から、写真を見るために足を止める来館者もあり、期間中は多くの見学者が作品にじっくりと見入っていました。会場では、SDGsに関連する出版物や受賞作品を使用したクリアファイルも配布し、SDGsについて知る機会を提供しました。



## 新収資料紹介

教職員著作目録 2018.1 - 2018.6 配架図書一覧 ( ) は所属学部等

著者名	書名	出版社	出版年月	配架場所	請求記号
ゲイブリエル・ジョンボヴィッチ 秋山 嘉 (法)	著 訳 タッチ：距離を巡る旅	中央大学出版部	2018.3	中央書庫/開架	934/J78
阿部 正浩 (経), 山本 勲	編 多様化する日本人の働き方：非正規・女性・高齢者の活躍の場を探る	慶應義塾大学出版会	2018.1	中央書庫/開架	366.21/A12
新井 武二 (研)	著 レーザー微細加工：基礎現象と産業応用	丸善出版	2018.1	理開	549.95/A62
余 華 飯塚 容 (文)	著 訳 中国では書けない中国の話	河出書房新社	2017.8	開架/中国言語	924/Y72
池田 和臣 (文), 徳武 陽子	著 惟規集評釈	青簡舎	2017.12	中央書庫/国文	911.13/F68/I32
フランス教育学会 赤星 まゆみ, 池田 賢市 (文) [ほか]	編 執筆 現代フランスの教育改革	明石書店	2018.1	中央書庫/総合政策	372.35/F92
宮澤 弘道, 池田 賢市 (文)	編著 「特別の教科道徳」ってなんだ?：子どもの内面に介入しない授業・評価の実践例	現代書館	2018.1	開架/教育学	375.352/Mi89
佐々木 正道, 吉野 諒三, 矢野 善郎 石川 晃弘 (名), 安野 晋子 (文)	編著 執筆 現代社会の信頼感：国際比較研究(II) (中央大学社会科学研究所研究叢書 36)	中央大学出版部	2018.3	中央書庫/開架	361.4/Sa75
磯崎 初仁 (法)	著 自治体政策法務講義 改訂版	第一法規	2018.3	中央書庫/開架	318.1/I85
井田 良 (法務), 佐藤 拓磨	著 刑法各論 第3版 (新・論点講義シリーズ 2)	弘文堂	2017.12	中央書庫/開架	326.2/I18
井田 良 (法務)	著 入門刑法学 = Introductory lectures in criminal law 各論 第2版 (法学教室Library)	有斐閣	2018.3	中央書庫/開架	326/I18
井田 良 (法務), 佐藤 拓磨	編著 よくわかる刑法 第3版 (やわらかアカデミズム・「わかる」シリーズ)	ミネルヴァ書房	2018.5	開架/市ヶ谷法務	326/I18
伊藤 壽英 (法務)	編 法化社会のグローバル化と理論的実務的対応 (中央大学学術シンポジウム研究叢書 11)	中央大学出版部	2017.11	中央書庫/開架	321.9/I89
伊藤 洋司 (経)	著 映画時評集成：2004-2016	読書人	2017.11	中央書庫/開架	778.2/I89
岩田 重則 (経)	著 日本鎮魂考：歴史と民俗の現場から	青土社	2018.4	中央書庫/開架	385.7/I97

著者名	書名	出版社	出版年月	配架場所	請求記号
上野 清貴 (商)	編著 スタートアップ会計学 第2版	同文館出版	2018.2	中央書庫/開架	336.9/U45
橋本 泰子 (文) 藤 俊坤, 飯塚 容 (文), 大田 美和 (文), 妹尾 達彦 (文) ほか	編著 アジアと生きるアジアで生きる: 中央大学文学部プロジェクト科目講義録	樹花舎	2018.3	中央書庫/開架	292/E63
遠藤 研一郎 (法)	著 基本テキスト民法総則	中央経済社	2018.4	中央書庫/開架	324.1/E59
遠藤 研一郎 (法)	著 民法(財産法)を学ぶための道案内 第2版	法学書院	2018.4	中央書庫/開架	324.2/E59
伊藤 靖史, 大杉 謙一 (法務), 田中 亘, 松井 秀征	著 会社法 第4版 (Legal quest)	有斐閣	2018.4	中央書庫/開架	325.2/I89
大橋 正和 (総)	編著 デジタル革命によるソーシャルデザインの研究 (中央大学政策文化総合研究所研究叢書 23)	中央大学出版部	2018.3	中央書庫/開架	302.1/C66
モーリス・メルロー=ポンティ 加賀野井 秀一 (理) 〔ほか〕	編著 現代の哲学・年表・総索引 (メルロー=ポンティ 哲学者事典 別巻)	白水社	2017.12	参考/哲学	103.3/Me66 103.3/Ka16
笠井 修 (法務)	著 契約責任の多元的制御	勁草書房	2017.12	中央書庫/ 市ヶ谷法務	324.953/Ka72
加藤 新太郎 (法務) 金丸 和弘 〔ほか〕	編集代表 判例法理から読み解く企業間取引訴訟	第一法規	2018.1	中央書庫/ 市ヶ谷法務	335/Ka86
加藤 新太郎 (法務), 小林 康彦	編 裁判官が説く民事裁判実務の重要論点 基本原則権利の濫用編	第一法規	2018.2	中央書庫/ 市ヶ谷法務	327.2/Ka86
加藤 新太郎 (法務) ほか	編 21世紀民法学の挑戦: 加藤雅信先生古稀記念 上下巻	信山社	2018.3	中央書庫/ 市ヶ谷法務	324/Ka86
金井 貴嗣 (法務), 川瀬 昇, 泉 水 文 雄	編著 独占禁止法 第6版	弘文堂	2018.4	中央書庫/開架	335.57/Ka44
北村 敬子 (名)	編著 会計研究者として活躍する女性たち: 輝ける未来へ向けて	中央経済社	2018.2	中央書庫/開架	336.9/Ki68
工藤 達朗 (法務), 西原 博史 〔ほか〕	編 憲法学の創造的展開: 戸波江二先生古稀記念 上下巻	信山社	2017.12	中央書庫/ 市ヶ谷法務	323.01/Ku17
棟居 快行, 工藤 達朗 (法務), 小山 剛 柴田 憲司 (法) ほか	編 憲法 (判例トレーニング)	信山社出版	2018.4	開架/市ヶ谷法務	323.14/Mu33
国本 伊代 (名)	編著 ハナマを知るための70章 第2版 (エリア・スタディーズ 42)	明石書店	2018.1	開架	302.578/Ku45
古賀 正義 (文), 石川 良子	編 ひきこもりと家族の社会学	世界思想社	2018.1	中央書庫/開架	371.4/Ko24
神原 清則 (戦略)	著 安藤百福: 世界的な新産業を創造したイノベーター (PHP経営叢書 日本の企業家 11)	PHP研究所	2017.11	開架/戦略経営	335.13/N77 335.13/Sa31
齋藤 雅通, 佐久間 英俊 (商)	編著 グローバル競争と流通・マーケティング: 流通の変容と新戦略の展開	ミネルヴァ書房	2018.1	中央書庫/開架	335.1/G34
佐藤 鉄男 (法務)	著 民事手続法入門 第5版 (有斐閣アルマ)	有斐閣	2018.4	開架/市ヶ谷法務	327.2/Sa85
佐藤 博樹 (戦略), 矢島 洋子	著 介護離職から社員を守る: ワーク・ライフ・バランスの新課題 新訂	労働調査会	2018.2	開架/戦略経営	336.4/Sa85
真田 芳憲 (名)	著 「大逆事件」と禅僧内山愚童の抵抗	佼成出版社	2018.3	中央書庫/開架	188.8/U25/ Sa61
椎橋 隆幸 (名) 柳川 重規 (法), 中野目 義則 (法), 堤 和通 (総), 安井 哲章 (法) ほか	編 「第四修正関係」: 捜査・押収 2 (日本比較法研究所研究叢書 114 米国刑事判例の動向: 合衆国 最高裁判所判決 6)	中央大学出版部	2018.3	中央書庫/開架	327.953/A95
椎橋 隆幸 (名), 柳川 重規 (法) 小木曾 綾 (法務), 滝沢 誠 (法務), 堤 和通 (総), 中野目 善則 (法), 安井 哲章 (法) ほか	編 刑事訴訟法基本判例解説 第2版	信山社	2018.4	中央書庫/開架	327.6/Sh32
実積 寿也 (総) ほか	著 OTT産業をめぐる政策分析: ネット中立性, 個人情報, メディア (KDD総研叢書 6)	勁草書房	2018.1	中央書庫/開架	600/J55
斯波 照雄 (商)	著 西洋都市社会史: ドイツ・ヨーロッパ温故知新の旅	学文社	2018.1	中央書庫/開架	361.48/Sh15
鈴木 俊幸 (文)	著 近世読者とそのゆくえ: 読書と書籍流通の近世・近代	平凡社	2017.12	中央書庫/開架	023.1/Su96
妹尾 達彦 (文)	著 グローバル・ヒストリー	中央大学出版部	2018.4	中央書庫/開架	209/Se76
田中 洋 (戦略)	著 ブランド戦略論	有斐閣	2017.12	中央書庫/開架	675.2/Ta84
谷口 洋志 (総)	編著 中国政治経済の構造的転換 (中央大学経済研究所研究叢書 71)	中央大学出版部	2017.10	中央書庫/開架	332.22/Ta87
宮本 久雄 出村 和彦, 土橋 茂樹 (文) 〔ほか〕	編著 愛と相生: エロス・アガペー・アモル (シリーズ教父と相生 No.1(2018))	教友社	2018.3	哲学	132.1/Mi77
中條 誠一 (総), 唐 成 (総)	編著 世界から見た中国経済の転換 (中央大学経済研究所研究叢書 70)	中央大学出版部	2017.10	中央書庫/開架	332.22/N34
生田 目 崇 (理)	著 マーケティングのための統計分析	オーム社	2017.11	開架/市ヶ谷法務	675.2/N47
本沢 巳代子, 新田 秀樹 (法)	編著 トピック社会保険法 2018 第12版	不磨書房	2018.4	中央書庫/開架	364/Mo93
野村 修也 (法務)	監修 コンプライアンスのための金融取引ルールブック 第17版	銀行研修社	2018.3	開架	338.32/N95
服部 龍二 (総)	著 佐藤栄作: 最長不倒政権への道	朝日新聞出版	2017.12	中央書庫/開架	289/Sa85/H44
文 病 蘭 広岡 守建 (法), 金正 勲	著 織女へ - 一九八〇年五月光州ほか: 文病蘭詩集	風媒社	2017.10	開架	929.1/B89
園部 逸夫, 藤原 静雄 (法務) 個人情報保護法研究会	編著 個人情報保護法の解説 第2次改訂版	ぎょうせい	2018.2	開架/市ヶ谷法務	316.1/So44
石川 敏行, 藤原 静雄 (法務) 〔ほか〕	著 はじめての行政法 第4版	有斐閣	2018.4	中央書庫/開架	323.9/I76
升田 純 (法務)	著 民法改正と賃貸借契約: 賃貸管理業者への影響: 100年振りの改正	大成出版社	2018.4	中央書庫/ 市ヶ谷法務	324.52/Ma66
松尾 正人 (名)	編 近代日本成立期の研究 政治・外交編 地域編	岩田書院	2018.3	中央書庫/開架	210.58/Ma85
松本 昭夫 (総)	編著 経済理論・応用・実証分析の新展開 (中央大学経済研究所研究叢書 72)	中央大学出版部	2017.11	中央書庫/開架	331/Ma81
三船 毅 (総)	編著 政治的空間における有権者・政党・政策	中央大学出版部	2018.3	中央書庫/開架	312.1/Mi15
エイブラム・チェイス, アントーニア・H・チェイス 宮野 洋一 (法)	著 国際法遵守の管理モデル: 新しい主権のありかた (日本比較法研究所翻訳叢書 79)	中央大学出版部	2018.3	中央書庫/開架	329.12/C36
宮本 悟 (総)	著 フランス家族手当の史的探究: 企業内福利から社会保障へ	御茶の水書房	2017.11	中央書庫/開架	366.45/Mi77
森 勇 (法務)	編著 弁護士的基本的義務: 弁護士職業像のリアリティ (日本比較法研究所研究叢書 115)	中央大学出版部	2018.3	中央書庫/開架	327.14/Mo45
矢内 一好 (商)	著 解説BEPS防止措置実施条約	財経詳報社	2018.1	中央書庫/開架	345.1/Y54
矢内 一好 (商)	著 租税条約はこう変わる! BEPS条約と企業の国際取引	第一法規	2018.3	中央書庫/開架	345.1/Y54
山崎 朗 (総), 鍋山 徹	編著 地域創生のプレミアム (付加価値) 戦略: 稼ぐ力で上質なマーケットをつくり出す	中央経済社	2018.2	中央書庫/開架	601.1/Y43
山田 昌弘 (文)	著 底辺への競争: 格差放置社会ニッポンの末路 (朝日新書 635)	朝日新聞出版	2017.10	中央書庫/開架	361.4/Y19
山西 博之 (理)	編 大規模バイリンガルウェイブコーパスの構築とデータ分析のための各種システムの開発	溪水社	2018.3	中央書庫	830.7/Y37
横山 佐紀 (文) 〔ほか〕	著 描かれる他者, 攪乱される自己: アート・表象・アイデンティティ (アメリカ美術叢書 3)	ありな書房	2018.1	開架	723.53/Y79
賢合 いづみ (理)	著 大学1年生のなっとく! 生態学	講談社	2017.10	開架/理開	468/W44
フィリップ・ヴァルテール 渡邊 浩司 (総), 渡邊 裕美子	著 アーサー王神話大事典	原書房	2018.2	参考	D930.2/W37

\* (法): 法学部、(総): 経済学部、(商): 商学部、(文): 文学部、(総): 総合政策学部、(理): 理工学部、(法務): 法務研究科、(戦略): 戦略経営研究科、(研): 研究開発機構教授、(名): 名誉教授  
\* スペースの都合上、配架場所は2ヶ所まで表記している。

